

大明小学校 校長室から

令和元年5月16日

No. 8

文責 校長 飯久保一男

また、幼い命が…



4月に東京の池袋で、青信号で道路を横断していた母子が、暴走した車にはねられ亡くなった事故がありました。私も親として、夫として、大きな衝撃を受けました。

そしてまた、滋賀県の大津で、信号待ちをしていた保育園の子どもたちの列に車が突っ込み、幼い命が絶たれるという事故が起きました。子どもたちの教育に携わる者として、親として、深い悲しみに包まれました。詳しい報道を見聞きすると、涙がこぼれました。

大きく報道されたこれらの事故のほかにも、4月と5月のこれまでに小学生などが交通事故にあって命を落としたり、けがをしたりという報道がたくさんありました。

私たち、教職員の一番の使命は、子どもの命を守ることです。朝、家を元気に出かけた子どもたちを、元気に家に帰すことが最低の仕事です。その子どもたちの1日の中で、命の危険を心配しなければならないのは、登下校です。

この紙面の1号で、「コウツウジゴラ」の話を載せました。2号では、「自分の安全(命)は自分で守る子どもを育てる」ことについて書かせてもらいました。何度も繰り返しますが、子どもたち

の登下校の安全のため、ご指導とご協力をお願いします。

警察庁は、小学生が歩行中に遭った死亡・重傷の交通事故は、4月から5月に増え、特に1年生の事故が急増しているという分析結果を発表しています。事故に遭うのは「下校時」が多いとのこと。1年生の事故が5月に増えることについては、警察庁は「集団や先生が付き添う形の下校がだんだんなくなり、学校生活にも慣れて活動が活発になることなどが要因ではないか」とみています。今がその時期です。4月は緊張していた1年生が、慣れてきたことで、気が緩む時期なのです。もちろん1年生だけのことではありません。年間を通して、小学生の絡む交通事故が一番多いのが5月という統計が出ています

今年は、5月11日～20日が全国春の交通安全運動期間です。子どもによっては、「何度も同じことを言わないで!」「わかってるって、もう…」などと親に口ごたえをすることがあるとは思いますが、毎日、口をすっぱくするほど、登下校の注意は言っても構いません。

13日には、登下校を見守っていただいているボランティアの皆さんの紹介式を行いました。毎日ありがとうございますとお礼を言うと、ある方が「子どもは宝ですから当たり前です」と言ってくださいました。

大津の事故でもガードレールや車止めのポールなど予防策の必要性が説かれていました。予防措置を講じることはもちろん大切ですが、子どもたちには、危険に対する意識を常にもたせたいと思っています。

